

次の世代に伝えること

～ 木育教室を通して考えたこと ～

1. 目的

建設業の就業者数が減ってきている中で、
日本や地球の未来のために私たちができることは？

① 蕨陽町中央公民館



前回の反省である細かい説明は
子どもにとって分かりやすい言葉に
置き換え、自信をもって教えることが
できました。

2. はじめに

現在、建設業の就業者数が

減

今後、人を増やすためには

⇒ 建設業に興味をもってもらう！

興味をもってもらうには

⇒ 体験をしてみよう！ = 木育

将来的に
建設業を志す人が
増えることも期待
されている！！

しかし、このとき担当した作品は、試作
で"作ったこと"がなかったため、作り方を
完全に把握することができず、トラブル
が起きてしまった。→ はじめの試作の
段階は人に教えるために重要であることを
身をもって思い知った。

3. 準備

作品決め → 作品の試作 → 製材準備

① 作品決め：筆箱・お守り・コスター・^{New}ペン立て
作品の試作で自分ができるようになる → 人に教えられる

② 製材準備(筆箱)

墨付けと下穴をあけるところを担当

インパクトドライバーを初めて使用

→ ドリルの刃が何度も折れた



5. 教える、伝えること

今後、建設業に興味をもってもらう(=は、建
設業やものづくりの魅力を教え、伝えること)と思
った。また、今回実施した木育教室でも教え、伝えるこ
とが直結するため、教える、伝えることについて次の
文献で調べてみた。

「『説明が上手い人』がやっていることを

(冊にまとめてみた)

4. 実施

木育教室は計4回実施

2/3 ネグラスカ州 から来校した学生への木育 → 1/4 本校生徒
→ 2/8 大津町生涯学習センター → 3/4 蕨陽町中央公民館

① ネグラスカ州

事前に教える際に使う英単語や手順の確認をした。

しかし、事前に準備していた英単語だけでは対応が難しくなった。

② 大津町生涯学習センター

前回と比べると子どもを対象としていたため、説明が
しやすく、前回の反省を活かした。(ポスターやお守りを見るなど...)

→ 沈黙して作業することがないようコミュニケーションを
取り、子どものペースに合わせてながら補助することができた。

しかし、細かい説明は伝わりづらく、
実験コーナーでは説明だけになってしま
うまく話を続けることができなかった。
このときの反省は改善できるように
話し合った。



実験コーナー
(木を顕微鏡で見える実験)

① 説明が下手なのは、考え方が正しくないから
② PREP法を理解し、説明したい内容をPREPの4つ
(=分解すると説明力が上がる(結論&理由&具体例・根拠&結論))
③ 始めに結論がわかれば、相手にとって聞く効率上がる
→ 正確で速く説明が終わる

④ 似た言葉を並べて"うだうだ"と話しても相手には伝わら
ない、逆(言葉を簡潔にし、結論を先に言うこと)
⑤ 何が言いたいのか相手に(分かり)やすくすることを知った。

⑥ さあさあ

木育の活動を通して、未来のために私たちができ
ることは、建設業やものづくりの魅力を次の世代に
教え、伝えていくことだと思った。(伝えるには、うまい説明
が必要で、調べたことを実践していくこと、さいごに、
この活動を続けていくことが大事だ)と思った。

(参考文献)

「説明が上手い人」がやっていることを(冊にまとめてみた
国土交通省HP